

# ほんものの給付奨学金を求める学習集会2019

パネル・ディスカッション

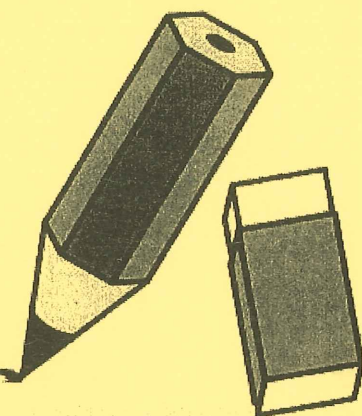
## —「奨学金」から高校・大学教育のあり方を問う—

高校現場は、「奨学金」の募集と申請手続きに追われ  
学生支援機構は、高校現場からの問い合わせに追われ  
給付制奨学金が受けられるか否かによる選別で、大学は自治と研究の自由を奪われ  
「奨学金」で学ぶ大学生は、アルバイトで学びの時間を奪われる。

そんな日本の教育について

- 高校現場の「奨学金」担当教職員
- 学生支援機構で働く職員
- 「奨学金」の貸与を受けながら学ぶ大学生
- 大学で教育に携わる教職員

などの皆さんをパネラーにむかえて討論します。  
皆さんの参加をお待ちしています。



## 5月25日(土) 13:30~(13時開場)

高校現場の声

## 埼玉教育会館104

(2018年度奨学金アンケートから)

○給付型の奨学金の金額があまりにも低すぎ、低所得世帯の生徒が進学するには結局貸与型と併用するしかなく、その結果借金を背負うことになる。借金して進学することが当然のような奨学金をまっとうな奨学金と呼べるでしょうか。借金を背負ってまで進学させることをためらう気持ちも働くが、だからと言って、その生徒が貧困の状態から抜け出す機会の一つに進学があるのなら、無理してでも進学をしようとするのを引き止めるわけにはいかないと感じている。

○教員の行う業務ではないというのが正直な意見です。生徒の家庭状況など、一介の教員が扱うには大きすぎる個人情報が集まります。その処理だけでも、通常の業務への影響が大きいと感じました。

主催 埼玉県教職員組合・埼玉県高等学校教職員組合・埼玉県私立学校教職員組合連合  
埼玉県労働組合連合会(事務局:048-838-0771)